

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	9372400798		
法人名	医療法人社団聖和会		
事業所名	グループホーム グリーンライフ ヴィラ		
所在地	熊本県玉名郡長洲町宮野2772-18		
自己評価作成日	平成29年1月10日	評価結果市町村報告日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構		
所在地	熊本市北区四方寄町426-4		
訪問調査日	平成29年2月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>木々に囲まれた静かな環境の中でゆっくりと過ごせる雰囲気がある家庭的なホームです。病院、老健が同じ敷地内に併設されており、医療体制や、退居後の受け皿もあり、安心感を与えることが出来るホームです。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>医療法人を本体としたホームは、併設施設との協力体制が構築されており入居者それぞれの生活スタイルを尊重したケアが会議等でも話し合われている。日中の共有スペースは、新聞を読んだりテレビを観たり、食事の準備等を手伝ったりと思いの時間が流れる場所になっている。職員は理念に基づくケアが徹底しており毎月の会議内容も充実している。入居者一人ひとりを理解しケアについて話し合いを重ね、常に理念についての具体的な取り組みについても意見を出し合っている。周辺環境により地域との交流が難しい状況である中、地域の方々が法人の事業所を核にして集まりつどう場所としての役割が形成されている。ホームとしては、理念を大切にした質の高いケアの継続に期待します。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づき、入居者、ご家族、知り合いの方が安心して過ごせるよう心掛けている。	理念は職員の業務の基盤として定着している。毎月の会議では「理念等についての具体的な取り組み」が議題とされており、振り返りと課題について意見を出し合っている。理念の他、ケアの目標も毎月掲げ、振り返りを行っている。	理念は玄関に掲示され、職員間の共有・振り返りが出来ていますが、更なる入居者家族や地域の方々への啓発のため、運営推進会議での紹介等、機会を増やすことにも期待しています。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣に住宅が少なく機会は少ないが参加しやすい地域行事には声を掛けていただくことがある。	周辺は民家が少なく日常的な交流は難しいが、地域行事の際には参加している。地域の方々は併設施設デイサービス利用時に来訪頂いたり、病院受診時等にも顔を合わせる機会も多い。隣接施設から園児の訪問もあり楽しい時間となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度は区内で搜索模擬訓練もあり、声掛けの仕方の方法を伝えるなど参加協力することが出来た。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催しており、主に活動報告、認知症関連の情報提供を行っている。	2ヶ月に1回開催しており、区長・民生委員・行政職員の参加がある。入居者の様子や活動内容の他、職員の研修・会議内容、設備等についての報告を行っている。地域行事や町の情報、ホームへの要望・助言を頂く機会にもなっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議への参加、他に介護サービス事業所連絡会を通したつながりができている。	運営推進会議には町からも参加がある。日頃からも相互の報告事項のやり取りや情報交換、介護サービス事業所連絡会を通しての活動等で協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は日中オープンにしており全スタッフも身体拘束をしない意識を持って、見守りや同行支援を行うなど取り組んでいる。又、年に一回は勉強会で取り上げ確認している。	身体拘束についての勉強会をホーム内で行っており、具体的な事例を含めて学んでいる。日頃より職員は「不適切な介護」を意識しながらケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と関連づけて勉強会で取り上げ、不適切な介護をしていないか確認している。		

グループホームグリーンライフヴィラ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域権利擁護事業と合わせて研修会がある際は参加する要している成年後見制度は利用されている方もいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学時、入居時、又は介護保険改訂の時などに説明を行い納得していただいていると思っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	特別に機会としては設けていないが、面会時に利用者の様子を伝え意見や要望を聞くようにしている。	家族にはホームの季節行事に案内し、入居者と共に過ごす時間を設けている。介護計画作成の際には家族と共に入居者の生活について話し合い、計画についてだけでなくホームに関しても意見や要望等を聞く機会としている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議前に意見を聞き会議の議題として皆で検討するようにしており、その結果が反映されている。	月会議では職員は事前に思う事を出し合い、また改善が望ましい点等についても意見を出し、検討・共有を行っている。会議の中でも理念が軸とされ、意見も出しやすい環境が整い、改善に繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昨年度より人事考課のシステムが始まり、職員の努力が評価されるよう整備されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務の調整などで外部研修を受ける機会を確保するようにしている。又、法人内研修年に数回行われている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月に一回のグループホーム連絡会に参加し情報交換や、勉強会等の活動を行っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談の時点で1度本人にホーム見学を勧めており、雰囲気を感じてもらい、その上で本人の求める物を聞き取り対応できるか検討し環境を整えるようしている。		

グループホームグリーンライフヴィラ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談の際にGHで出来ることと出来ないことや、リスクと家族の要望を照らし合わせGHと家族が共同でケアにあたる関係を作りたいと考えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在のサービス利用状況を聞き、法人内の居宅サービスやリハビリなども紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で自発的に動かれる機会を大切にして、特に得意分野や希望の活動で力を発揮して頂いたり、教えていただくことも多い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者本人にとってのご家族の位置づけを大切にしながら役割を担っていただくことも多く、共同でケアにあたるが出来ていると思う。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族と相談し問題がなければ馴染みの場所へ外出したり、知人の面会をもてなしたり、併設施設に友人が入所、入院されたときは会いに行くこともある。	併設の病院や施設は以前からの知り合いの利用者も多く、相互の訪問による馴染みの関係を継続している。日々の買い物にも入居者と共に出掛けたり、家族協力のもと外出したりと、それぞれの関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を把握しており、状況に応じて気の合う物同士で活動をしたり、活動の拒否時に誘っていただくこともある。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療機関入院時は面会や見舞いに行くなど関係を切らないようにし、相談があれば再入居の検討もしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の希望は日常の関わりの中である程度把握できており、可能な限りは意向に添えるようにしたいと考えている。	日常生活では入居者に寄り添い、会話や対応で思いや意向を把握し職員間で共有、意向に沿うように検討している。朝食時間等、一人ひとりの生活スタイルも大切にしながら可能な限り個別に対応している。	

グループホームグリーンライフヴィラ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族やサービス提供者から情報を聞き取り把握するようにしており、入居後も本人、ご家族から日常生活の中で把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者個々の日中の過ごし方をどのようにしたら良いのか、出来ること、出来ないことを日々観察し把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、ご家族からの要望を元に職員の意見を取り入れ計画作成担当者が計画を作成している。定期的なモニタリングやカンファレンスを行い、半年ごと又は、変化のあった際に見直し現状に即したプラン作成している。	入居時だけでなく入居後も利用者本人・家族も交え意見を取り入れた計画を作成している。毎月の会議では入居者の毎日の様子をもとに状況報告を行っており、半年ごとに見直しを行っている。変化時には状況に即した変更を行い、家族にも説明した承りいただいている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は出来るだけ分かりやすいように、記入漏れがないように気を付けながら行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院支援やその時々ニーズや身体状況に対応した支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源との協働については取り組みが出来ていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	馴染みのかかりつけがあるならば出来るだけは継続していただくようにしている。ご家族の理解が得られれば同法人の病院がかかりつけとなり連携をとって支援をしている。	入居前のかかりつけ医を受診できるが入居後併設の病院を受診する入居者が多く、現在は全員がかかりつけ医である。歯科は訪問医の利用が出来、毎週看護師の訪問もある。その他専門医は基本的に家族による通院介助とし、情報の共有を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設病院と医療連携の契約をしており、最低でも週に一回は看護師がホームを訪問し状態の管理と情報の共有をしている。		

グループホームグリーンライフヴィラ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	出来るだけ早期に退院できるよう医療機関と連携して本人の状態を把握し、受け入れの検討と退院の時期を決めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や終末期に関する指針について説明しており重度化した場合には、医師とご家族の間に入りムテラの機会を作り終末期についての要望を改めて確認し、出来るだけ希望に添うようにしている。	重度化や終末期に関する指針を入居時に説明し了承を得ている。現状では重度化した場合は病院等に移設する場合も多いが、入居者や家族の希望を第一に考え、医師とも話し合いながら出来るだけ希望に添うよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練まではできておらず、発生時の処置、対応、連絡について確認していく必要がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設施設と合同で火災、地震についての昼・夜想定しての避難訓練を利用者参加で行っている。	併設施設と合同で火災、地震起因の火災を想定し避難訓練を行い、協力体制を確認しあっている。熊本地震後は居室の配置や壁飾りを見直した。	火災については訓練を重ねられているようですが、今般の情勢を鑑みると自然災害についての更なる安全確保のためにマニュアルについて話し合い、見直す機会を設けてはいかがでしょうか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者個々に対応した声のトーンや言葉使用で声掛けを行うよう努めている。	一人ひとりそれぞれに合わせ、声のトーンや大きさ、言葉遣いに配慮した対応を行っている。個人情報保護についても学んでいる。特にトイレ誘導時には周囲に気を配っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ利用者本人が理解しやすい言葉を選び説明し、着替えの際の服を選んで頂いたりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限りは入居者のペースや要望に合わせて、時にはスタッフが提案し選択していただくようにしている。		

グループホームグリーンライフヴィラ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節感を取り入れ、本人の好む色や柄からご自分で選ぶことができる方には選んでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好みや季節の物を取り入れ献立考え、出来る方とは食事の準備、片づけを共にやっている。	食材買い物には入居者も一緒に出掛け、準備や後片付けにも参加する姿が見られる。「出来ることを出来る範囲で」を大切に、それぞれの支援を行っている。職員も同じ食事で共に時間を過ごすことで会話に繋がり、入居者の好みの把握もできている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後食事量のチェックを行い水分も定時に提供している。食事はそれぞれの能力に応じて刻み、ミキサー等形態を工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は出来ていないが、自分で口腔ケアが出来ない方には義歯洗浄、口腔ケアティッシュで口腔清掃を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれの排泄パターンに合わせたり、表情味ながらトイレの声掛け、誘導を行っている。	排泄パターンを把握できており、時間だけでなく様子や素振りから声かけている。日中は全員トイレへ誘導を行っており、夜間帯はそれぞれの状況に合わせて対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食にヨーグルトを提供したり、出来るだけ食事に野菜を多く使うようにはしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来るだけ本人の希望に添うようにしたいが、間隔が空く方が出たりして難しいこともある。2、3日に一回は入ってもらっている。	基本的に週2～3回の入浴を支援している。季節や気分により拒否がある場合にも時には入浴剤も利用しながら楽しめる様工夫している。清潔保持には力を入れており、着替え等もまめに行っている。	

グループホームグリーンライフヴィラ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の状態に合わせて日中休んでもらうこともあるが、生活パターンがある程度できており、夜間は眠れていることが多い。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋の確認を行っており、それぞれ理解できている。又、一覧表も作成し、薬の内容を随時確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者が出来ることは極力していただき、調理、片づけ、ゴミ出し等の役割や歌やゲーム等に興味がある方とは一緒に活動している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	以前と比べると外出の希望が減っているが買い物に誘ったり、季節ごとの花見や、地域の行事等に出掛けたり、ホーム周辺の散歩行っている。	初詣や季節の花見、季節行事等、出来るだけきっかけをつくり外出を行っている。買い物や外食、ドライブと、大げさではなく日常的な外出もある。隣接施設には度々訪問しており、相互利用者との交流も楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は自己管理難しい方が多く自身で持たれている方少なく、使用する機会も作れていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があるときには支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ季節感を大切にリビングや玄関に花を飾ったり、その時の入居者に合わせてリビングのソファは位置変更したりしている。	リビングは大きな窓から日差しが差し込み、明るく穏やかな時間が流れている。季節の花が飾られた食卓横のスペースにはテレビやソファが置かれ、入居者が思い思いの場所で時間を過ごしている。	

グループホームグリーンライフヴィラ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の両端のソファを活用し少人数で過ごしたり日向ぼっこや、昼寝をされる方もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた生活用品を持ち込んで頂いたり、電化製品やテーブル等持ち込まれている方もいる。本人の希望で新聞取っている方もおり居室でリラックスして新聞読まれている。	洗面台とベッドが準備された居室には、使い慣れた家具や生活用品が持ち込まれている。冷蔵庫やテレビ等電化製品等、入居者それぞれの生活に合わせ心地よく過ごせる工夫がある。熊本地震後にはベッドや家具の配置を見直し、安全にも配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入り口のネームプレートやトイレ、浴室の表示、居室内の家具の配置等工夫している。		

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 グリーンライフ ヴィラ

作成日 平成 29年 3月 10日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	火災についての避難訓練は行っているが、地震や水害に対する対策ができておらず、状況に応じた柔軟な対応ができるのか不安がある。	全職員が災害のいろんな状況に柔軟に対応できる。	災害別のマニュアルづくり。法人との合同訓練の他に独自での訓練を行う。	12か月
2	49	ご利用者の状態変化に伴い外出の機会が以前よりも減ってきている。	外出の機会を確保しご利用者に生き生きと生活をしていただく。	日中のご利用者の生活パターン、スタッフの業務の見直しにより外出の機会を確保する。	6か月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。